



野菜研究所ニュース

No.21 2018. 3

あおもりの未来
技術でサポート

青森県産業技術センター 野菜研究所

<掲載記事>

- 田子町「たっこ1号」
- ナガイモ長大系統検討会
- 試験研究成果発表会
- にんにく実用化研究成果報告会



野菜研究所が特性調査に協力した「たっこ1号」が昨年10月に品種登録されました。田子町では「たっこにんにく」ブランドの大きな武器と位置付けています。

ナガイモ新系統意見交換会

2月7日、野菜研究所で現地試験担当者、JA、県などの関係機関の参加を得、ナガイモ新系統の現地試験成績を中心に28、29年の2年間の成績について検討されました。

ナガイモ新系統は、「園試系6」に比べ、いも長が長く、いも重が重く、AB品収量の多いのが特徴です。欠点は平イモが多いことです。現地試験では、東北町では、増収していましたが、他の地域では特性が十分に発揮されているとはいえない結果でした。

今後の青森県産ナガイモの輸出成長に期待しつつ、新系統の栽培法研究を続けます。



長大系統

園試系6

試験研究成果発表会

2月23日、平成29年度野菜研究所研究成果発表会が三沢市国際交流教育センターで101名の参加を得、開催されました。

年々、出席いただける方が増え、これまでの会議室では、手狭となり、皆様には窮屈な思いをさせ、申し訳なく、会場を変更しました。

○発表課題名

- 1 珠芽を利用したニンニクの種苗生産技術
- 2 夏ダイコンのキスジノミハムシに対する効果的な防除法
- 3 青森県におけるゴボウ黒条病の発生確認

これらとあわせて、イモグサレセンチュウ、イチゴ・ナガイモ品種育成、リモートセンシング技術、ナガイモ小種子の利用方法の取組を紹介しました。

今後も、会場の施設に劣らぬように発表内容をよりわかりやすく、お伝えしたいと思います。



席はゆったりとし、画面が広く見やすく

青森にんにく革新技術実用化研究報告会

3月9日、青森にんにく革新技術実用化研究報告会が青森県農産園芸課と野菜研究所の共催でラプラス青い森で59名の参加を得、開催されました。

2カ年の県の重点事業において、イモグサレセンチュウに対しての新たな視点からの対策技術を大学の先生方に研究いただき、成果を発表しました。

野菜研究所からは、青山研究員が、発生ほ場の収穫適期判定の可能性について、今主任研究員からは、マルチの種類や収穫時期がくぼみ症に及ぼす影響について講演をしました。

今後も、イモグサレセンチュウに対する取り組みを充実させ、被害の拡大防止につながるようにしていきたいと思っています。

